



2021年5月10日

各 位

上場会社名 矢作建設工業株式会社  
代表者名 取締役社長 高柳 充広  
(コード番号:1870 東証1部・名証1部)  
本社所在地 名古屋市東区葵三丁目19番7号  
問合せ先責任者 経営企画部長 黒田 健一  
TEL 052-935-2344

## 矢作建設グループ「中期経営計画（2021年度～2025年度）」の策定について

この度、当社グループは、2021年度から2025年度までの5ヵ年を対象とする「中期経営計画（2021年度～2025年度）」を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

2020年度を最終年度とする前中期経営計画（2018年度～2020年度）においては、①建設エンジニアリング能力の更なる向上、②経営環境の変化に耐えうる事業ポートフォリオの追求、③生産性向上と就業環境整備両面からの「働き方改革」の推進、の三点に基づく取組みを推進してきた結果、建築、土木、不動産のバランスの取れた事業ポートフォリオが定着してきたことに加え、業績面でも売上・利益ともに過去最高水準へ伸長させることができました。

一方で、昨年来のコロナ禍は産業構造やビジネスモデルの転換を一举に前倒し、また近年の温暖化による自然災害の激甚化や、プラスチックごみ問題等、社会の価値観も経済性重視からサステナビリティ重視へ転換しており、企業には社会価値と企業価値の両方を創出しつつ、事業モデルを持続可能なものに高めていくことが求められています。

本中期経営計画の策定にあたっては、このような経営環境および企業理念・経営理念をもとに、当社グループが持続的成長を実現していくために、まず10年後の目指す姿を「課題解決&価値創造型企業」と設定しました。「課題解決&価値創造型企業」とは、顧客や地域が抱える課題を解決するだけにとどまらず、より良い社会を実現するために建設エンジニアリングによる新たな価値を創造・提供することで、顧客・地域、そして社会の持続的発展に貢献する企業です。そして、東海圏にとどまらずリーニア経済圏への事業拡大を図りつつ、そのなかの特定の顧客・分野で強力な競争力を有する企業、売上規模では10年後に現状のおよそ2倍となる2000億円程度という姿を設定しております。

この10年後の姿の実現に向けて、前半5年間で既存事業の深化・進化と新規分野・領域の探索・開拓を両立推進し、後半5年間で加速度的に成長するための基盤を構築する期間と位置づけ、本中期経営計画の対象期間としました。具体的には、事業規模拡大に向けた生産体制の強化や生産性を向上させる建設生産プロセスの改革、新規技術・サービスの開発、事業エリアの拡大、様々なパートナーとの価値共創等に取り組んでまいります。また、安全・品質レベルの向上、魅力的で働きがいのある職場環境の整備、SDGsへの積極的な取組みなど、成長を支える経営基盤の確立にも取り組んでまいります。

## 中期経営計画（2021年度～2025年度）の概要

### 1. 事業方針

～課題解決&価値創造型企業への変革～

加速度的成長に向けた「つくる（造る・創る）力」の増強と持続的成長への基盤構築

- 既存事業の深化・進化
- 新規分野・領域の探索・開拓
- 成長を支える経営基盤の確立

### 2. 数値目標（連結）

|      | 2025年度 |
|------|--------|
| 売上高  | 1300億円 |
| 営業利益 | 100億円  |

### 3. 配当方針

連結業績や財務状況を勘案しながら、継続的かつ安定的な株主還元を実施する。

自己株式の取得は成長投資の状況及び市場動向などに鑑み、必要に応じて臨機応変に実施を検討する。

#### 【 配当性向の目標 】

|      |       |
|------|-------|
| 配当性向 | 30%以上 |
|------|-------|

### 4. 投資計画

10年後の目指す姿の実現に向けた基盤構築のための成長投資を実施する。

#### 【 投資金額 】

|      | 2021年度～2025年度<br>(5年間) |
|------|------------------------|
| 成長投資 | 約300億円                 |

※なお、詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

(注) 本資料記載の将来に関する一切の記載内容は、発表日現在において入手可能な情報に基づき推計したものであり、実際には様々な要因により予想と異なる結果になる可能性があることをご承知おきください。

# 矢作建設グループ 中期経営計画 (2021年度～2025年度)

1. 前中期経営計画の振り返り
2. 長期ビジョンと中期経営計画の位置付け
3. 事業方針
4. 数値目標・配当方針
5. 投資計画

2021年5月10日

# 1. 前中期経営計画（2018年度～2020年度）の振り返り

## 前中期経営計画 事業方針

- 建設エンジニアリング能力の更なる向上
- 経営環境の変化に耐えうる事業ポートフォリオの追求
- 生産性向上と就業環境整備両面からの「働き方改革」の推進

## 前中期経営計画の総括

事業方針に基づく取組みを推進してきた結果、

- ・ 建設事業においては、大型物流施設や大型造成工事の受注をはじめ、新規顧客の開拓や事業エリアの拡大により、建築、土木ともに事業規模が拡大。
- ・ 不動産事業においては、自社開発の大規模工業団地の販売が進捗したことに加え、新たな産業用地開発も順調に進捗。
- ・ 上記の結果、建築、土木、不動産のバランスの取れた事業ポートフォリオが定着。
- ・ 業績は売上、利益ともに過去最高水準に伸長し、目標を達成。
- ・ ROEは2020年度は目標未達となったが、期間全体では目標を概ね達成。

## ■ 連結経営成績

(単位：百万円)

|       | 前中期経営計画期間    |              |              |              |
|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|
|       | 2018年度<br>実績 | 2019年度<br>実績 | 2020年度<br>実績 | 2020年度<br>目標 |
| 売上高   | 92,754       | 90,129       | 106,615      | 100,000      |
| 建築事業  | 48,394       | 44,263       | 58,635       |              |
| 土木事業  | 29,564       | 29,618       | 33,771       |              |
| 不動産事業 | 14,796       | 16,247       | 14,208       |              |
| 売上総利益 | 16,509       | 16,300       | 15,699       |              |
| 建築事業  | 6,325        | 6,360        | 5,929        |              |
| 土木事業  | 5,412        | 5,097        | 5,760        |              |
| 不動産事業 | 4,770        | 4,842        | 4,009        |              |
| 営業利益  | 7,705        | 7,764        | 7,362        | 7,000        |
| ROE   | 9.5%         | 10.2%        | 6.2%         | 8%以上         |

## 2. 長期ビジョンと中期経営計画の位置付け

当社グループが持続的成長をしていくために、長期ビジョンとして10年後の目指す姿を設定。

本中期経営計画期間（2021～2025年度）は、10年後の目指す姿に向けて、加速度的に成長するための基盤を構築する期間と位置付ける。

### 今後の市場環境認識

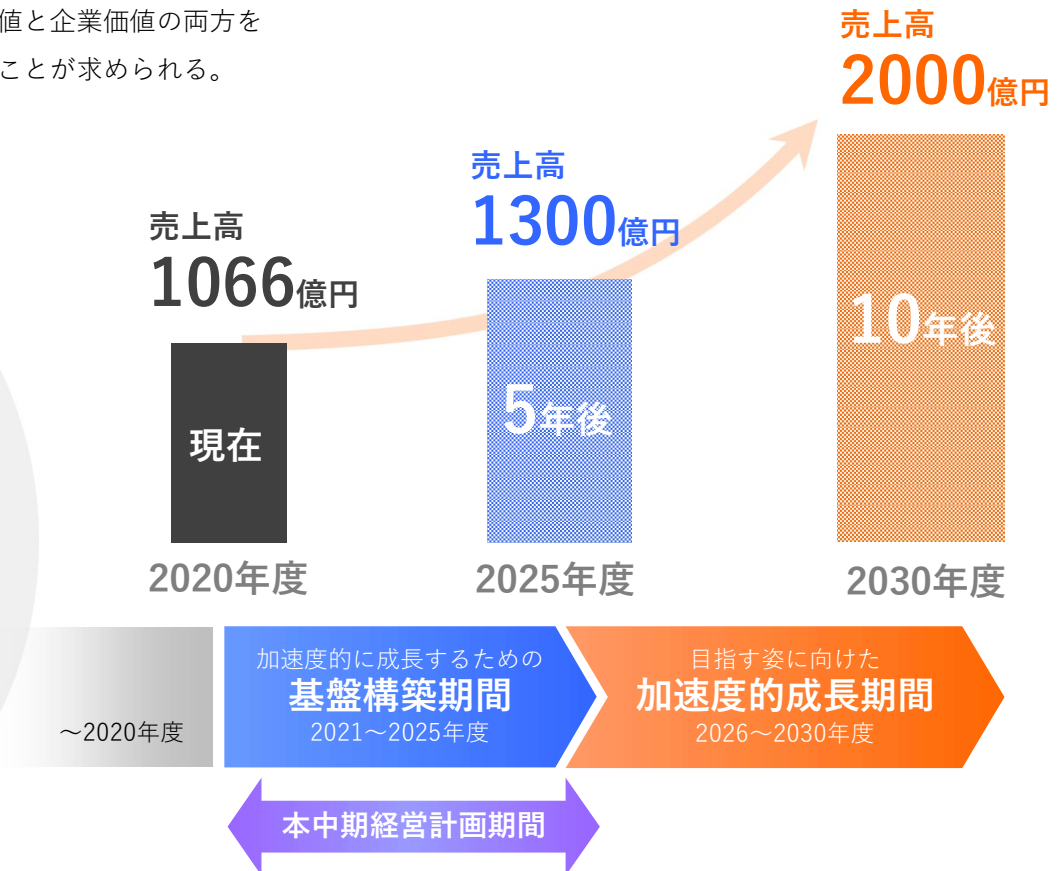
コロナ禍による産業構造やビジネスモデルの転換に加え、社会の価値観は経済性重視からサステナビリティ重視へ転換。今後は社会価値と企業価値の両方を創出しつつ、事業モデルを持続可能なものに高めていくことが求められる。

**10年後の目指す姿**  
(長期ビジョン)

**「課題解決 & 価値創造型企業」**

顧客や地域が抱える課題を解決するだけにとどまらず、より良い社会を実現するために建設エンジニアリングによる新たな価値を創造・提供することで、顧客・地域、そして社会の持続的発展に貢献する企業。

東海圏にとどまらずリニア経済圏への事業拡大を図り、そのなかの特定の顧客・分野で強力な競争力を有する企業。



### 3. 事業方針

本中期経営計画では、以下の事業方針を掲げ、既存事業の深化・進化と新規分野・領域の探索・開拓を両立推進し、次の5年間で加速度的に成長するための基盤を構築する。

#### ～ 課題解決 & 価値創造型企業への変革 ～

加速度的成長に向けた「つくる（造る・創る）力の増強」と持続的成長への基盤構築

- ◎ 既存事業の深化・進化
- ◎ 新規分野・領域の探索・開拓
- ◎ 成長を支える経営基盤の確立

①  
事業規模拡大に向けた  
生産体制の強化

②  
生産性を向上させる  
建設生産プロセスの改革

③  
企画提案力の強化/  
プロジェクト推進力の強化

④  
新規技術・サービスの開発  
/技術・ノウハウの習得

⑤  
事業エリアの拡大  
/対象分野の拡張

⑥  
様々なパートナーとの  
価値共創

⑦  
安全・品質レベルの向上  
と管理体制の強化

⑧  
魅力的で働きがいのある  
職場環境の整備

⑨  
SDGsへの取組み推進  
(SDGs宣言)

## 4. 数値目標・配当方針

### ◆ 数値目標（連結）

|      | 2020年度<br>実績 | 2025年度<br>目標  |
|------|--------------|---------------|
| 売上高  | 1066億円       | <b>1300億円</b> |
| 営業利益 | 73億円         | <b>100億円</b>  |

### ◆ 配当方針


- 連結業績や財務状況を勘案しながら、継続的かつ安定的な株主還元を実施
- **配当性向 30%以上** を目標
- 自己株式の取得は成長投資の状況及び市場動向などに鑑み、必要に応じて臨機応変に実施を検討

|      | 前中期経営計画期間    |              |              | 本中期経営計画期間             |
|------|--------------|--------------|--------------|-----------------------|
|      | 2018年度<br>実績 | 2019年度<br>実績 | 2020年度<br>実績 | 2021年度 ~ 2025年度<br>目標 |
| 年間配当 | 28円          | 34円※         | 34円          | <b>配当性向 30%以上</b>     |
| 配当性向 | 27.1%        | 28.6%        | 44.8%        |                       |

※ 創立70周年記念配当4円を含む

## 5. 投資計画

- 10年後の目指す姿の実現に向けた基盤構築のための成長投資を実施
- **5年間で約300億円**の成長投資を計画

|      | 前中期経営計画期間      |  |              | 本中期経営計画期間   |
|------|----------------|--|--------------|---|
|      | 2018年度<br>実績   | 2019年度<br>実績   | 2020年度<br>実績 | 2021年度 ~ 2025年度<br>計画                                 |
| 成長投資 | 75億円           | 51億円   | 34億円         | <b>約300億円</b><br>・不動産投資<br>・研究開発投資<br>・人財投資<br>・情報化投資 |
|      | (3年間)<br>160億円 |  |              |   |
|      | 53億円/年         |  |              | 60億円/年  |





 **矢作建設工業株式会社**  
YAHAGI

本資料記載の将来に関する一切の記載内容は、発表日現在において入手可能な情報に基づき推計したものであり、実際には様々な要因により予想と異なる結果になる可能性があることをご承知おきください。